

2018年9月25日

ポーラ化成工業、世界的に権威ある化粧品技術者学会にて発表 **農場や森には肌に良い菌が多いことが判明** 菌と触れ合う新たな美容アクティビティの幕開けへ

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:釘丸和也)は、2018年9月18日～9月21日にドイツ・ミュンヘンで開催された第30回国際化粧品技術者会連盟(以下IFSCC)世界大会(Congress)のポスター発表部門において、特定の環境の菌に着目したユニークな研究と、新しい生活習慣の提案を発表しました。この知見は、今後、ポーラ・オルビスグループの商品・サービスに応用されます。

■論文タイトル：『特定環境の菌の力を利用した美肌アプローチ研究～肌に良い休日の過ごし方～』

英文名： How to enjoy your skin-friendly holidays ~a new approach to obtaining the beautiful skin by using bacterial floras found in specific environments~

発表者： ポーラ化成工業(株) フロンティアリサーチセンター
笠原 薫、大島 宏

■発表内容概要(補足資料 図1)

菌は肉眼で見えないため意識しづらいですが、私たちは日々周りの菌と接触しています。肌の上にもたくさんの菌がいて、人によって菌の種類はさまざまです。周りの環境にいる菌も肌上に取り込み、共存していることも珍しくありません。

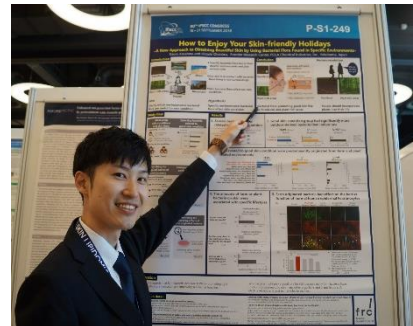
本研究では、首都圏の女性約300人の肌上の菌を採取し、それらがもともとはどのような場所に住んでいる菌なのかを分析しました。その結果、肌が良い状態にある人は、ある特定の環境にいる菌を多く持つことを発見しました。バリア機能、明るさ、弾力性などの状態が良い肌には、屋外環境の菌、特に、農場や植物の周りによく見られる菌が多く存在していたのです。

これら菌の一つを例に皮膚への影響を検証した結果、タイトジャンクション(肌の細胞同士を隙間なくつなぎ合わせ、水分の消失を防ぐ構造)の形成を高めることが分かりました。これは菌によるバリア機能改善メカニズムの一つであると示唆されました。

以上から、農場や、植物が豊富な森などを積極的に訪れ菌に触れ合うと、肌状態の改善に役立つと考えられます。さらに、

試験に参加した女性に普段の生活について詳細に調査すると、「自宅や職場に植物を置いている」「花屋を訪れる習慣がある」人の肌には、農場や植物の周りによく見られる菌が多く、このような習慣を通して良い菌を肌に取り込める可能性が見出されました。したがって、自宅に植物を置くといった暮らし方の工夫でも肌状態を良くすることができると期待されます。

この研究成果をもとに、今後ポーラ化成工業では、これまでに全くなかった美容目的のアクティビティや環境づくりの提案や、さまざまな菌の力をうまく取り入れることのできる新しい化粧品の扉を開いていきます。



ポスター発表を行う笠原研究員

【補足資料】

IFSCC について

IFSCC世界大会は、世界中の化粧品技術者・研究者にとって最も権威のある学会です。西暦偶数年には世界大会(Congress)を、また西暦奇数年には中間大会(Conference)を開催しています。応募論文発表はIFSCC の厳正な審査を受け、選ばれたものだけに許されます。今回は口頭発表85件、ポスター発表448件が最先端の化粧品技術を披露しました。

図1 研究概要

農場や、植物の多い森などの環境は肌に良い菌が多いという発見から、新しいライフスタイルを提案しました。

